

臨床研究「食道癌に対する陽子線治療のリンパ球温存効果と予後への影響」について

筑波大学附属病院 放射線腫瘍科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

食道癌に対する根治的化学放射線療法において、陽子線を放射線治療の手段として用いることで、治療効果を維持したまま、放射線製肺臓炎・胸水貯留・心筋梗塞・心嚢水貯留などといった心・肺の晩期有害事象を低減できることが過去の研究で示されている。これは陽子線治療によって心・肺の被曝線量を低減できることによるが、最近になってこれらの被曝低減が治療期間中のリンパ球減少の低減にも寄与することが報告された。

一方で、種々の癌に対する放射線治療において、治療期間中のリンパ球数の維持が治療効果に影響することも報告されている。食道癌についても同様の報告が米国よりなされているが、本邦と米国では主たる組織型や病変部位、また標準治療の内容も異なっており、本邦においても陽子線治療によるリンパ球数維持が予後に寄与するかどうかは不明である。

以上の背景をもとに、本邦の食道癌患者においても、X線治療と陽子線治療で治療期間中のリンパ球数・好中球-リンパ球比の推移に差があるか、またリンパ球数・好中球-リンパ球比の維持が生命予後に寄与するか、の2点について明らかにする。

② 研究対象者

筑波大学附属病院で放射線治療または陽子線治療が施行された食道癌の患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2022年3月31日まで

④ 研究の方法

筑波大学附属病院で過去に食道癌に対して根治的な同時化学放射線療法を行った症例のうち、以下に該当する症例について、治療直前および治療期間中に測定された血液検査データの経時的変化、ならびにカルテ情報から得られた生存期間の解析を行う。

- ・ X線または陽子線のどちらかで、期間中すべての放射線治療が行われている
- ・ 治療期間中、1週間以上の照射休止期間がない
- ・ 当該治療以前に化学療法または放射線治療を受けたことがない
- ・ 他がんまたは血液疾患が併存していない

⑤ 試料・情報の項目（具体的に記載すること）

診療情報（疾患背景、生命予後）、血液検査データ（白血球数、白血球分画）

⑥ 試料・情報の第三者への提供について（該当する場合は記載）

提供せず

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 放射線腫瘍科 角谷 泰輔

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院 陽子線医学利用研究センター：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：放射線腫瘍科 担当：角谷 泰輔

電話：029-853-7100（平日 9～17 時）